

B-37 スカート裏地のスリット留めに関する研究(第3報)

スリット留めの強さについて(3)

広島県立吉田高校 ○成長克子 比治山女短大 枝広瑤子
広島大教育 山田都一・ 斉藤宏子

目的 本研究の第1報「裏地のスリット明きについての調査」より、裏地のスリット留めの部分が、何らかの損傷を生じていたものが、40%近く見られたことにより、第2報では「スリット留め」の種類とミシン縫糸の種類による強さの比較をキュプラ裏地を用いて検討したところ、裏地の破損が問題となった。そこで本報では、調査の結果、使用頻度も高く、また、キュプラに比べて強さ・伸び率とも大きい、ナイロン・ポリエステル裏地を用いて、「スリット留め」の強さをさらに比較検討した。

方法 ①試料 — 裏地：キュプラ、ナイロン、ポリエステルの3種・ミシン糸 — 絹糸#50、ナイロン糸#60、ポリエステル糸#90の3種 ②縫製条件 — ミシン：シンガー188U型、ミシン針：DB×1 #9、針目ピッチ数：7.5目/2cm、上糸張力：約20~50g、下糸張力：約11g、押え圧：約1.5kg、回転数：約1100rpm ③縫代幅 — 出来上り1.2cm(三つ折り) ④「明き止り」の始末：1.5cmの返し縫い ⑤「スリット留め」の種類 — 留めなし、1度縫い、1度縫いで虫留め、1度縫いで当て布、3度縫いの5種 ⑥スリット部の破壊試験の種類 — 引張試験(グラフ法)、引裂試験、破裂試験の3種。

結果 ①「スリット留め」の種類別による強さは、いずれの裏地・縫糸・破壊試験の場合も、当て布・3度縫いのものが大きい。②裏地の種類別による強さは、いずれの「スリット留め」・縫糸・破壊試験の場合も、強さ・伸び率の大きい、ナイロン・ポリエステルが大きい値を示し、布地の損傷も少ない。③縫糸の種類別による強さは、いずれの「スリット留め」・裏地・破壊試験の場合でも、絹糸・ナイロン糸で縫ったものが大きい。